

科目名称		投映法演習	
(担当教員名： 高橋依子(非常勤講師))			
課 程	： 大学院(修士)1年次	開講学期	： 後期(集中講義)
授業形態	： 演習	授業規模	： 31～80人
インタビュー対象教員名		高橋依子(非常勤講師)	
(実施日時：7月2日(木)14時10分～14時40分；実施場所：神戸HLC演習室10)			
インタビュー対象受講者名		上野山真以、大高麻耶	
(実施日時：7月8日(水)12時20分～12時40分；実施場所：総合研究棟3階小会議室)			
選定理由			
<p>1) この授業は、臨床心理士養成に必須の心理検査に関するもので、演習の部分に位置付けられている。内容には数学も含まれ難解である。しかも、履修者は30名以上と多いうえに、心理職に就かない学生も履修している。さらに、集中講義で非常勤講師により担当され、毎週の授業のように、予習復習をはさむことは難しい。このように不利な条件が多い授業にも拘らず、履修学生の評価は非常に高かった。</p> <p>2) この理由として、担当講師がロールシャッハの第一人者であるだけでなく、何年もこの授業を担当し履修者集団の傾向を熟知されていること、傾向に適した授業の工夫が高いレベルに達していること、履修学生の意欲も高いことが要因として挙げられた。臨床心理学コースの専門書籍の充実がこれをバックアップしていた。</p> <p>【授業の意図】①この授業は、ロールシャッハテストを臨床現場で実施できるように演習も含めて学習する。②授業の中心となる分析では、対象者をいろいろな側面から総合的に見てパーソナリティを理解していく。③その人を理解するだけでなく、世の中の人にはどんな特徴を持ち、人と接していくのにどういうところに気をつけたらよいかということまで応用できるように考える。</p> <p>【授業の工夫点】受講者の興味関心を引きつけ、やる気を持って授業に取り組めるような考慮として： ①受講者は心理職を目指さない人もいるので、人の心を把握するという点で役に立ち応用できることを授業の冒頭で話し、モチベーションを上げている。 ②テストの分析は複雑で難しいが、人の心の側面を一つ一つ調べていくのは推理小説のようだと話すなど興味を持って取り組んでもらえるように話をしている。 ③随時プリントを配付し、目で見分けるようにOHPなどを使用する。 ④授業は復習することから始め、理解を促している。分析をやりきれない時は宿題にし、何度も繰り返すうちに早くなり分かってくることを実感させている。 ⑤難解な記号の説明をする時は、後の解釈の説明を交えて展望が見えてくるように話をしている。 ⑥内容への集中を削ぐので、指名と回答のやりとりはしない。代わりに、質問を促す。</p> <p>【総括】学生のコメントやインタビューから、受講者の知的好奇心を刺激し、ニーズに合った授業が興味深く展開され、良い雰囲気の中で授業が行われたことが窺える。</p> <p>ここでは、学生のコメントや授業後のインタビューなどから、良い授業を具体的に追究したところ、選定理由のような条件と要因が窺えた。そこで、不利な条件下でも良い授業が出来る例として、ベストクラスのひとつに選定したい。</p>			